

経営比較分析表（平成28年度決算）

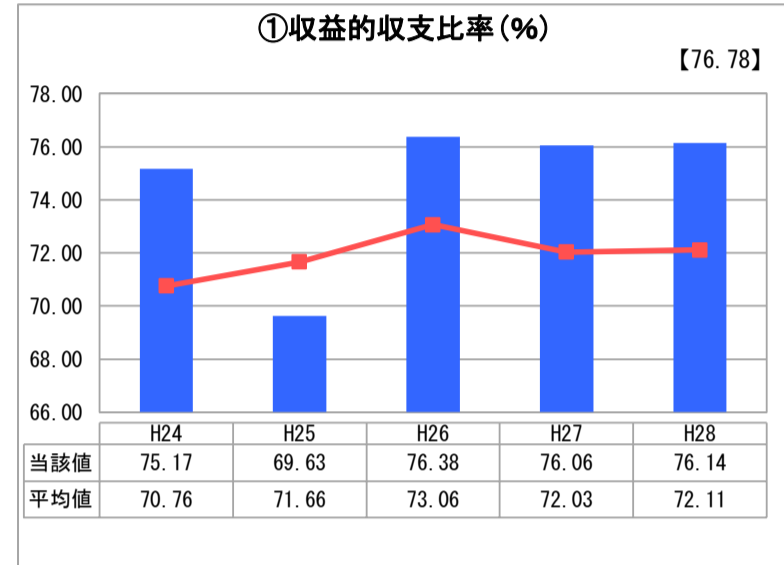
北海道 足寄町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	3.50	3,620	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,139	1,408.04	5.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
246	9.20	26.74

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



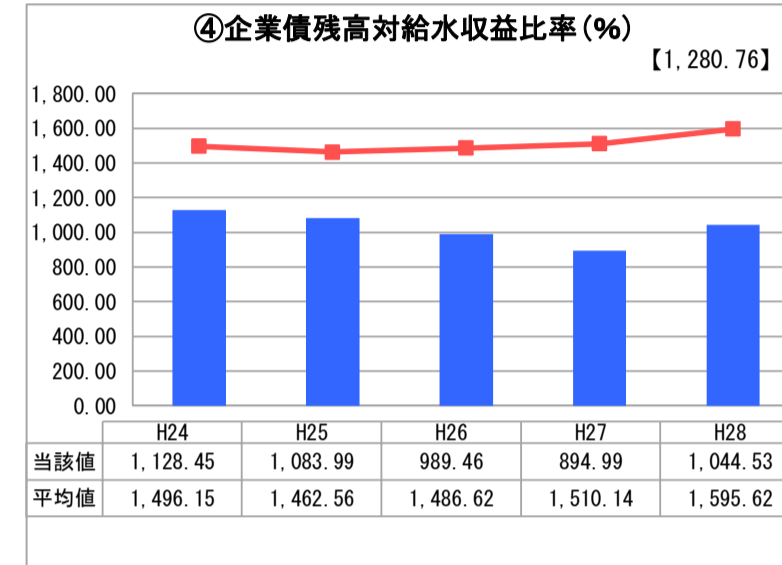
「単年度の収支」



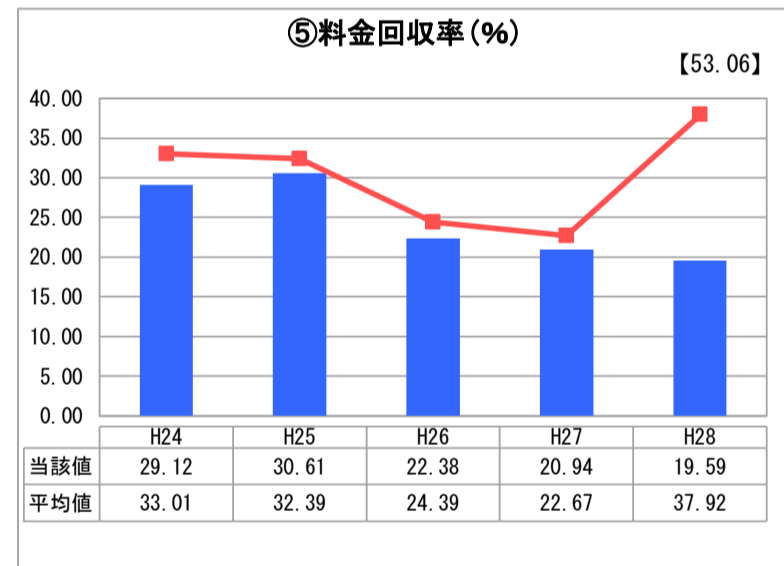
「累積欠損」



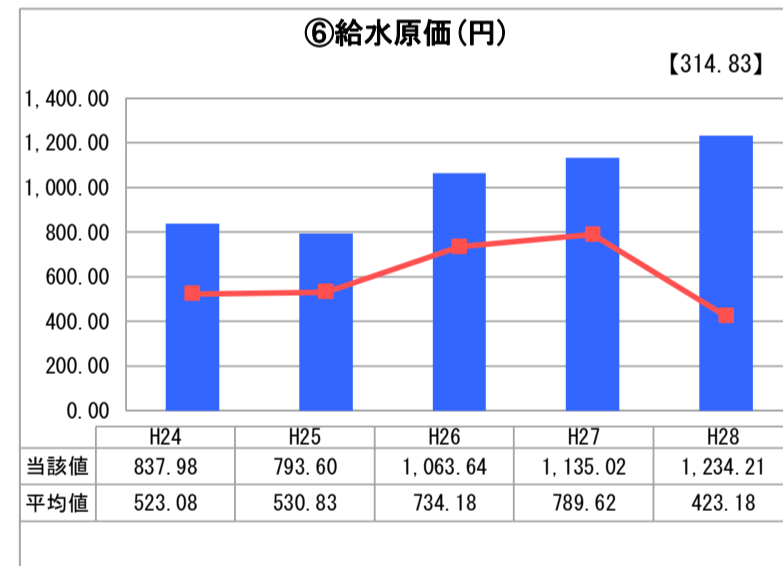
「支払能力」



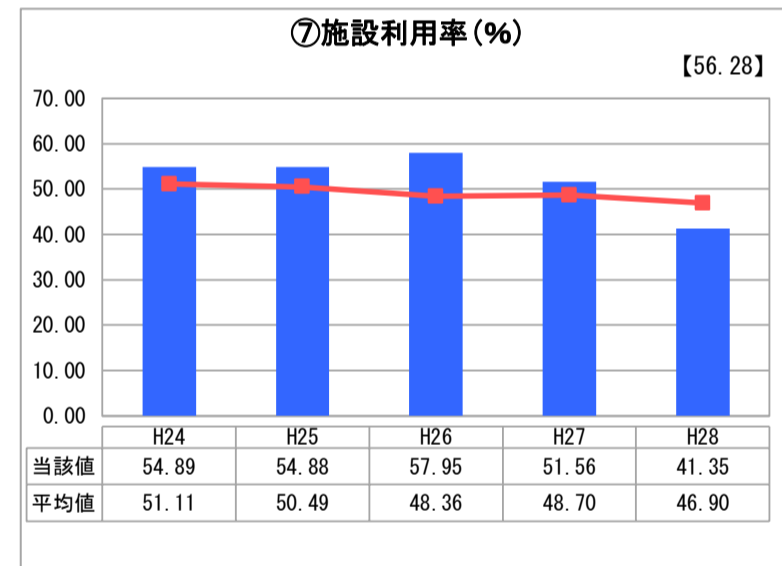
「債務残高」



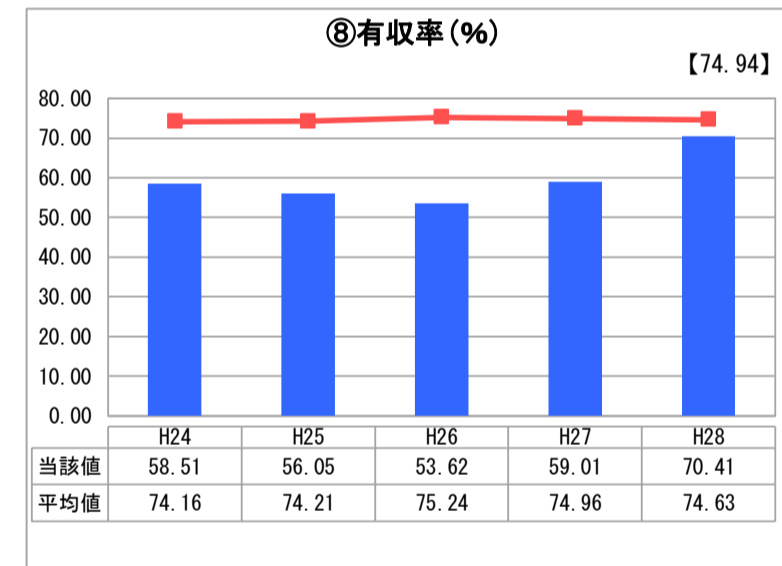
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

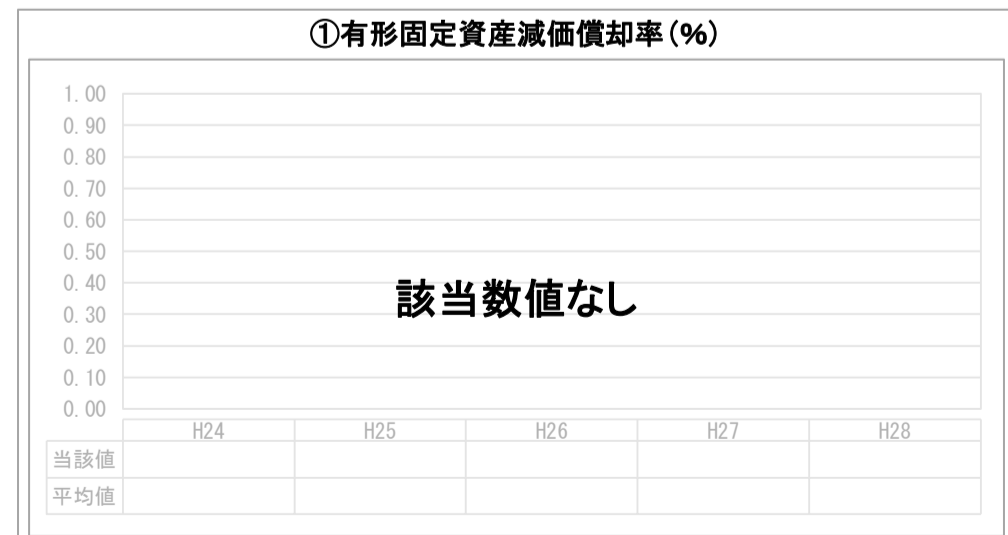


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

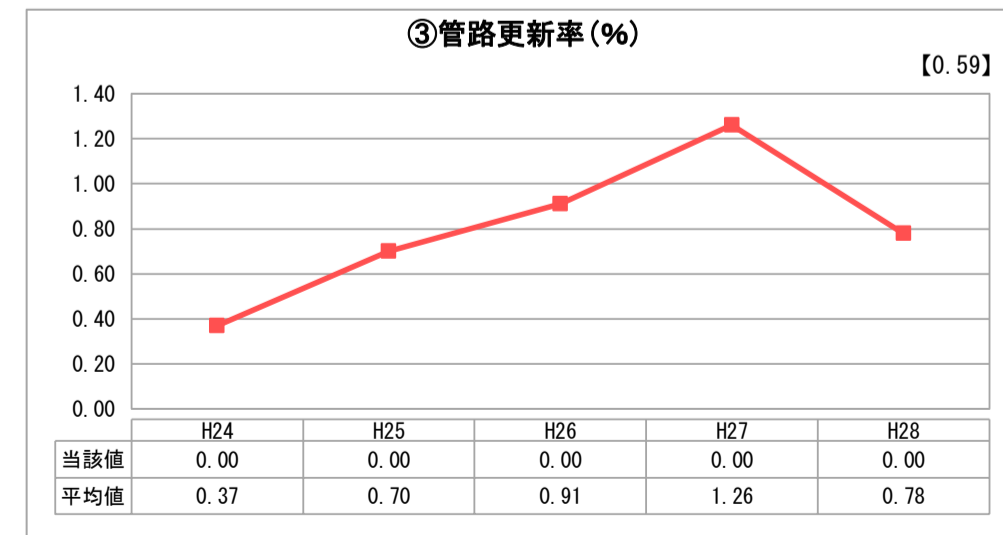
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は76.14%と、類似団体平均をわずかに上回っていますが、総収益で企業債の償還を含めた費用を7割程度しか賄っていない状況にあります。受益者負担の原則から、今後適切な料金の設定を図りさらなる収支状況の改善を図っていく必要があります。

企業債残高対給水収益比率は前年比149.54%増加しており、年々減少してきていた料金収入に対する償還の負担が再び増加に転じる結果となりました。料金回収率は年々低下していましたが、今年度は過去5年ですべて初めて20%を割りました。類似団体と比較しても大幅に低くなっています。本事業地域が大変広範囲かつ人口過疎地域であるため、計装装置や管路の整備等に費用が掛かる一方で、料金収入の大幅な増加が見込めないことが給水原価の上昇を招いています。設備の更新等は企業債の発行に頼ざるを得ませんが、既存設備の保守管理経費をねん出するため、料金体系の見直しと経費の圧縮を同時に図っていく必要があります。

有収率は70.41%まで上昇しました。有収率の低下は配水管の漏水によるものが主であることから、計画的に漏水調査を行い、今後も有収率の向上に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

現在簡易水道地域に敷設されている管路の老朽化が進んでいますが、費用上の理由により敷設替えのできないまま様々な要因で漏水が発生している状況です。しかもその殆どが小さな水漏れ程度の漏水であり、漏水調査をしてもその範囲が大変広大なため、実態を把握することが容易ではありません。漏水状況が通行止めなどの交通障害や人的被害を伴うものでもなければ、漏水の事実すら把握することが困難な状況です。

しかしながら、安定的な水の供給を行うために、今後計画的に施設修繕や管路敷設替えの費用を計上し、設備投資を行っていかねばなりません。

全体総括

類似団体平均と比べれば経営状況は平均的なものといえますが、簡易水道には人口過疎地域の水供給を担う役割があり、施設管理の難しさや給水人口の少なさを考えると、今後益々厳しい経営状況になることが予想されます。

それでも地域の違いが行政サービスの違いにつながらぬよう各機関と連携しながら簡易水道を保持し、料金体系を見直し利用者にも負担を求め、経常経費の圧縮に努めることによって、永続的に安全な水を安定的に供給できるような経営を目指していきます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。